

# 国際山岳ガイド・ 近藤謙司が語る 加藤保男と 新たな「OM」の魅力

山本 智=写真 荻和田一洋=文



1981年に作られた「オリンパスOM-1N」のカタログに登場の加藤保男。加藤はこのOM-1を持ってエベレストに登った、とある

## 近藤謙司（こんどう・けんじ）

1962年生まれ。国際山岳ガイド連盟公認ガイド。85年にチョモランマ冬季北壁最高到達点を記録。98年、(株)アドベンチャーガイド設立。02年に日本人初のエベレスト公募登山隊を組織し、06年には世界最高齢登頂者を導くなど、エベレストには過去4回の登頂を果たしている。

# 30

年前のオリンパスのカタログに、一枚の写真が載っている。70年代から80年代初めに活躍した登山家・加藤保男が「OM-1」を手にしている写真だ。

オリンパスのOMシリーズは、フィルムカメラの時代、小型で軽量なボディと独自のインターフェイスから、山岳カメラマンだけでなく、多くの登山家も愛用した名機。カタログを見ると、OM-1は加藤の体の一部であるかのような。そこには、加藤がOMに寄せる信頼感が浮かび上がっている。

このOMがデジタル一眼「OM-D」として帰ってきた。今回、加藤に憧れたという国際山岳ガイドの近藤謙司にOM-Dを手にしてもらった。

「高校生で登山を始めてから、加藤保男さんの背中を追っていました。このカメラを手にする時、当時の気分がよみがえってきます」

近藤は、実際には加藤と会うことはできなかったが、そのスタイルには大きな影響を受けているという。

「スイス・アルプスのメンヒを登る加藤さんを紹介するテレビ番組があって、そのなかで彼が岩稜でロープ操作

をするときに、バックパックと背中の中にアックスを挟むんです。その姿がかっこよかった。だから僕も両手が必要なきは、やはり同じようにしています」

OM-Dを操作した感触は、「今回、加藤さんの使っていたOMが新しく生まれ変わり、僕が使えるのもうれしい。外観はフィルム時代のマニュアルフォーカス一眼レフのよう。デジタルだからその最新機能もあって、ただ名機がリバイバルしただけじゃない点も高評価です」

OM-Dは、かつてのOMを凌ぐ小型・軽量化がなされている。また、強靱なマグネシウムボディや防塵・防滴性能など、厳しい山岳環境で頼りになるスペックも数多い。

「OMといえば、山でもタフに使える硬派なカメラというイメージ。加藤さんの想いも引き継ぐこのカメラを持つと、さっそうくバックカントリーに行きたくなる。撮りたいのは山とそこにいる仲間たちです」



オリンパスOM-D E-M5  
小型、軽量、堅牢性を備え、電子ビューファインダーや3.0型可動式有機ELモニターを搭載。幅121×高さ89.6×厚み41.9mm、本体425g。  
◎オリンパスカスタマーサポートセンター ☎0120-084215